

鈴木天眼 すしきん 評語家。慶應二年七月八日薩摩國一本松生れ、大正

十五年十一月十日歿（八六七一九三）。本名力 ちから。筆名てんげん、喫煙病

仙、天眼子、鈴木天眼子等。大學豫備門中退。明治二十二年仙信天、

北村二郎（川崎紫山）等と雑誌『活世界』發刊。二十八年『三新報』

主筆、翌年渡鮮して天治派と組織、二十一年長崎で九州日の出新聞

を、更に『東洋日の出新聞』を創刊。四十一年衆議院議員。

著譯書『獨尊子』（天眼子名、明治二十一年四月博文堂）、ザキ

クトル、チツソイ著・ジヨージ、デー、コックス英譯『政事上の』ユン

風煙（上編）□（同、重譯、未清鐵腸居士補述、明治二十一年二月）

十二日 應文堂・文盛堂、榎文堂、榎文館發兌、新長崎土産増補再版□（喫

煙病仙名、明治二十二年二月二十日再版、長崎・自刊）、『活青年』

（鈴木天眼子名、明治二十四年十一月十一日博文堂）、今田主税著

『國士模範平野國臣傳』（内題『國士模範平野次郎國臣傳』）天眼子名、大華山

人共補正、明治二十五年一月十二日東京堂）、『丈夫の本領（一名東

西の志編）』□（再版・明治二十五年八月二十七日學園會、博文堂發兌）、

『活文字』□（仙斗南共編述、明治二十六年一月一日博文堂）、『國民

の眞精神』□（天眼子名、明治二十六年九月二十五日博文堂）、『山紫

水明』□（合著・研學會編、明治三十年五月二十五日陸軍文藝講義録編

輯所『研學叢書』）、『小白本賊大日本賊』□（明治二十年六月二日叢

華書房）、『秋聲白露』□（合著・研學會編、明治二十一年十二月二十

九日研學會『研學叢書』）、『少年訓（第壹集）』□（本名、合著・山

縣傳）二冊編、明治二十二年八月十九日内外出版協會）、『南阿南米行』

（明治四十四年七月二十二日博文館）等。

文獻 中野天門
鈴木大眼 兩氏追悼會概狀及追憶談話 (昭和五年五月二十五日執

行、中野鈴木兩氏追悼會事務所) 等。